

虹の橋のかなた

文●はつん

僕が小さい頃、一人っ子で兄弟がいないことをいつも謝ってた母ちゃん。バイクに乗るたびに、車に乗るたびに、気をつけなさいねとひっこく繰り返していた母ちゃん。一人暮らしをはじめた僕に、風邪をひいていないか？ ちゃんとお飯を食べてるか？ ばかり言う母ちゃん。外泊の許可が出て久しぶりに家に戻った夜、悲鳴をあげる体でチャールハンを作ってくれた母ちゃん。お母さんもしかしてダメかもしれないよ

1日の満喫度はキューピーとプリンが奏でるイビキで確認する。ポリウムが大きければ大きいほど僕はうれしくてたまらない。小さければ小さいほど明日の満喫計画が膨らみうれしくてたまらない。僕はキューピーとプリンの寝ている姿がたまらなく好きだ。

鳴りともにも記憶が飛んでいた。なんで母ちゃんが：なんで母ちゃんが：なんで母ちゃんが：僕はひっこく繰り返した。繰り返した。繰り返した。世の中に意味のないことなんてない。誰が言ったか知らないけど後付けの意味なんているから今すぐ誰かに意味を聞きたかった。とにかく意味を聞きたかった。自分以外のもう一人の自分を仮想して、彼から指示をもらわなければ正常を保つのが困難だった。出口の見えない母ちゃんの人生設定。その日から亡くなるまでの5ヶ月間、がんセンターは母ちゃんと僕の家になった。

母ちゃんは胃がんだった。56歳のクリスマスに医者にご飯を宣告された。父はとんだクリスマスプレゼントだといひ、普段まったく食べないケーキをヤケ食いしたと電話でいった。僕は18歳から実家を離れていた。都会を目指した人間の定番の紆余曲折を経て、父の電話を受けたときは東京5年生28歳のクリスマスだった。キューピーはご飯を1分で食べる。食べたあと5分は器を舐め続ける。6分後の器はビカビカだ。プリンは僕よりよく噛んで食べる。ゆっくりに味わいながら上手に食べる。そのうちスプ

毎朝寝ぼけながら寝室のドアを開けると、きまってプリンがむくつと顔をあげ、寝ぼけながらゆっくり僕に近づいてくる。近づいたらまるで猫のようにゆっくり伸びをし、まるで猫のように大きなあくびをし、おはようくと僕に頭を差し出してくる。僕はおはようくと声をかけプリンの頭をなでる。きまってそのタイミングでキューピーがむくつと顔をあげ、寝ぼけながらゆっくり僕に近づいてきたかと思うと、走り高跳びかの要領で急に加速し、おはよう！ のダイブをかましてくる。キャッチした僕はダイブに負けないおはよう！ をしながら頭をなでる。

29歳の夏、僕は心臓に証を刻んだ。「冷静」幻想「熱く」「とらわれず」。その1ヶ月後、母ちゃんは57歳で死んだ。

イン程度なら使いこなすんじゃないかと思うほど上品だ。食後はキューピーとプリン揃って、軽く横になるよ的感觉を出しながら熟睡する。つられた僕も並んでウトウトしてみたりする。胃をすべて摘出する大手術に向かう母ちゃんの後姿。生きることも死ぬとも考えていない後姿に僕は呼吸がうまくできなかった。月並みだけど、代わるものなら代わってやりたいと生まれて初めて心底思った。そしてそう思ったことが少しうれしくもあった。手術を終えた母ちゃんは集中治療室で土色の顔をして眠っていた。その姿は現実味がなく、テレビを見ているようにしか思えなかった。手術は成功したが母ちゃんは胃がすべてなくなり、ご飯はほとんど食べられなくなり、もともと痩せすぎの体に申し訳程度に残る肉も日に日に剥ぎとられていった。

散歩コースの踏切りを渡った路地で、いつものおばあちゃんがいつもと同じように声をかけてくる。今日も2人はべっぴんさんだねとキューピーとプリンを褒めたあとは、もう軽く30回は聞いただろう、亡くなった飼い猫が冬におじいさんの草履を体で温めていた話を聞かせてくれる。僕はいつものように相槌を打ちながら聞いている。

「転移しています…」レントゲンを見つめながら無表情で告げる医者。いや悲しそうな表情だ

：入院中1度だけ弱音を吐いた母ちゃん。僕が生まれた日、晴れから曇り、雨になり雪になり、雷が鳴り嵐になり、また晴れたとうれしそうに話していた母ちゃん。母ちゃんはいったい何を幸せに思い生きていたんだろう？ 母ちゃんはどうなことをしているときに幸せを感じる人だったんだろう？

転移を告げられてからちょうど5ヶ月目の夏の朝、最期の最期まで苦痛と戦いながら母ちゃんは事切れた。それまでがウソだったかのよう母ちゃんは安らかな顔で眠った。僕は母ちゃんに言った。口には出さずに心で言った。やっただね。やっとうつくり眠れるね。ゆっくり眠りなよ。死ぬほどつらかったもんね。死ぬほど痛くて苦しかったもんね。よく頑張ったよ。ほんとによく頑張ったよ。もう痛くないでしょ？ もう苦しくないでしょ？ だからもう安心して眠りなよ。ゆっくり眠りなよ。また起こすからさ。今まで心配ばかりかけてごめんね。今までほんとにありがとう。母ちゃんの子に生まれてほんとに幸せだよ。一人っ子に生んでくれてほんとに幸せだよ。

明日の朝も寝室のドアを開けるとキューピーとプリンが僕を待っているだろう。明後日もその次の日も僕を待っているだろう。キューピー、プリン、あんた達は何をしているときに1番幸せ？